

園番号 630

## 令和元年度 奈良市立富雄第三幼稚園 研究実践概要

園長名 小西 茂美  
全園児数 26名

### 1. 研究主題

「心身ともに健康で主体的に活動する幼児の育成」  
— 身近な環境や人とのかかわりを通して —

### 2. 研究年度 初年度

### 3. 研究主題設定理由

入園するまでは家庭中心の生活で温かく見守られているが、他者との関係に限られている傾向にある。そのため、子ども同士や多様な人とのコミュニケーションを図る機会が少ない。そこで、様々なひと・もの・こととのふれあいやかかわりを通して、環境や援助の工夫を図りながらコミュニケーション力を高め主体的に活動する幼児を育てたいと主題を設定した。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

幼児が身近なひと・もの・ことのかかわりの中で、様々な経験を重ね、心身ともに健やかで主体的に活動できる幼児を育てる。

#### ②研究の重点

・様々なひと・もの・ことのかかわりを通して主体的に活動する力を育てるための環境構成や援助の在り方を探る。

・地域・家族・保育園・小中高などいろいろな人たちとの交流や連携を活かし、感動体験を積み重ねる。

#### ③活動の方法

#### 《4歳児》

事例1・「さくらんぼの実 見つけたよ！」(5月)

園庭で、色水遊びをしている時に、A児が「先生！さくらんぼ見つけたよ」と嬉しそうに保育者にさくらんぼを見せる。「ほんとだ。さくらんぼだね。」とA児の気持ちに寄り添い、声を掛ける。それを見ていたB児が「Aちゃんのもっているやつ私も欲しい」と保育者に訴える。「さくらんぼの実だよ。Aちゃんにどこにあったのか、きいてみようか。」と声を掛ける。B児が「どこにあったの？」A児が「あそこに落ちてたよ。」と答える。「Aちゃん、一緒に取りに行ってくれるかな？」と保育者が声を掛けると、「いいよ！こっちだよ。」と2人で楽しそうに、さくらんぼの実を拾いに行った。

#### <反省・評価>

A児・B児ともに、初めての集団であり、友だちとのかかわり方が分からず、思いや意志

はすべて保育者に伝えていた。その中で、友だちのしていること・持っている物に興味や関心はあるが、どのようにかかわったらいいのかわからずにいた。かかわり方を知らせたことで、一緒にさくらんぼを取りにいき、楽しんでいる様子が見られた。



### 事例２・・・「いろいろな影ができた」（１２月）

保育室のゲームボックスに窓の光が当たり、床に楕円形の影ができていることを、A児が発見し、形がサツマイモに似ていることから、“やきいもの影”と皆で呼んでいた。それがきっかけで、影に興味を持ちはじめ、面白い影を見つけては、友だちや保育者に伝え合っていた。影でジャンケンをしたり、手でキツネや犬をつくって遊んだり、影踏みをしたり、スタンドグラスでカラフルな影を見たりと、数日間に渡って遊んでいた。

ある日の一斉活動で、幼稚園にある色々な形の影探しを行い、丸い影・長い影・四角い影を探して喜んでいた。次は、自分達の体を使って、影をつくることになり、友達と２人でハートやダイヤの形をつくっていた。３人で縦に並んで手を広げて「１人に見える！」「おばけみたい！」「木にも見える！」と満足気に口々に言っていた。その後も、影見つけを楽しんでいた。

### 〈反省・評価〉

保育室に偶然できた“やきいもの影”から、今まで意識したことのない影に興味を持って楽しんでいた。体や物やいろいろなものを使って遊び込んでいくうちに、影に関心を持ち始めるようになった。後日、OHPを使った光源での影遊びを行ったことから、２月の生活発表会で“かげクイズ”として取り入れ、長期に渡って親しむことができた。



### 《５歳児》

#### 事例１・・・『お化け屋敷に入ろう』（５月）

お化けごっこからお化け屋敷をつくることになった。幼児が家から大きな段ボールを持ってきて、繋げていった。段ボールカッターで入り口を切ったり、暗くするために黒のビニールをかぶせたりして作った。段ボールの中はお化けの絵をかいたり、穴を開けて手を入れられるようにしたり、またチケット販売やお化けの役など考えて遊びを進めていった。お化

け役の子は、大きなビニールに血の絵をかいて着たり、黒い布を巻いたり、ビニール傘に目を付けたりなど変装して驚かせ方を考えていった。

できると「うさぎ組さん呼びにいきましょう」「お化け屋敷にきてください」と声を掛けに行き、うさぎ組さんに「ここでチケット買って下さい」「入り口はここです」と案内をしたり、穴から手を入れたり「うーおばけだぞー」と驚かせたりしていた。後日、小学1年生との交流では㊤「ここからお入りください」㊦「ほんまに暗い」小「きゃーおばけ！」㊧「出口はこちらです」㊨「怖くなかったけど面白かった」と小学生の反応がとても嬉しく生き生きと遊ぶ姿が見られた。

#### 〈反省・評価〉

それぞれに役割分担をし工夫しながら作り上げていった。クラスの友達だけでなく、4歳児や小学生との交流でも遊んだことからより楽しさが増し、長年に渡って遊び、満足感を味わった。



#### 事例2・・・『足湯できたよ』（7月）

砂場で2人ので幼児がずっと穴を掘っている。「これだけ掘れた」「入ってみよ」「一緒に入れたけどぎりぎりや、もっと掘らんなあかん」と言ってさらに大きくなるよう掘り出した。T「大きな穴掘れたね」「でも、2人しか入れないからもうちょっと掘るねん」「ちょっと大きくなったかな」T「温泉みたいやね」「ほんまや温泉になったわ」「これだけ掘れたけど丸くしないと入れへんで」。そこへ「入れて」と1人やってきた。3人で掘り始め「そろそろ入れるかな」と裸足で入っていった。「3人しか入れへんわ」「きゅうくつやな」「もう入れへんかな」「そやな、どうしよう」「そやな、このままやったらこけそうやん」「もっと広げないとあかんかな」T「向こうに木があるよ」と言う「そうだ、座れるように置いてみよ」と取りに行った。「3つ持ってきたで」「よし、置いてみよ」と周りに置いてみた。「これで座れるやん」「これやったらみんなゆったり入れるな」「足湯やな」と楽しんでいた。そして「みんな一足湯できたよ。入りに来てー」と知らせると4歳児さんもやってきて、周りに座り、「わーほんまや足湯や」「前、入ったことあるわ」とみんなで気持ちよさそうに入って遊ぶ姿が見られた。

#### 〈反省・評価〉

友達と一緒に作る中で、保育者の少しのヒントがきっかけとなり、地域の近くに足湯があるため共有のイメージとなり足湯ができた。



### 事例3・・・『大根できるかな?』（10月）

9月に地域の方に来ていただき、みんなで1人3粒の大根の種を一つの穴に蒔いた。翌日から毎朝水やりをし、芽が出るのを楽しみにしていた。一週間後「先生、大根の芽が出たよ」と伝えに来た。

間引きをする時期には地域の方が来てくれて「3つも芽出てるから、1つが大きくなるように他の2つを抜くんだよ」と子ども達に話しかけながら間引きのやり方を教えてくれた。「ここも抜いてもいい?」「こっちはどれ抜いたらいいん?」「これが大きいから置いとくんだよ」「ちいさい根っこ」と言葉を交わしながら間引いていた。「また、お水をしっかりあげてね」と地域の方と約束をした。間引いた葉は家に持ち帰り、料理をしてもらったという言葉が聞かれた。

だんだんと大根になって太くなっていく様子を見て「大根できてきた」と喜んでいて。12月の下旬に地域の方と一緒に大根を抜くと「大きいな」「葉っぱもすごいな」と生長した大きさに驚き「僕のはこんなん」「私のほうが大きいで」と比べたりして収穫を喜んでいて。地域の方の協力でできた大根をお家の人に見せ「大根、おでんにしてね」と嬉しそうに話をしていて。

#### 〈反省・評価〉

地域の方の協力で大根を植え、毎日水やりをすることで生長していく様子を見ることで大きな大根ができたことを嬉しく感じていた。自分たちで毎日世話をすることの大切さを実感し、主体性につながったと思われる。



## 5. 研究の成果

- ・初めての集団活動において、保育者との「温かい関わり」が次の活動に取り組むきっかけとなった。
- ・園内だけでなく、様々な人たちとのかかわりを持ち、交流する中で刺激を受けたり、感動体験を重ねることで、主体的に活動しようとする姿が見られた。

## 6. 今後の課題

様々なひと・もの・こととのかかわりの中で、自分の思いや考えを表現したり、相手のことを思いやったりするコミュニケーション力がまだ弱いように思われる。今後も、様々な経験を積み重ねていく中で、身近な環境や人とのつながりを深めていけるよう保育内容の創意工夫に努める。